

科目名 (英)	情報科学 (Information Science)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	小野寺 幸子
学科・コース	救急救命科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	前期 月曜・5限
教員の略歴	株式会社日立製作所で営業・インストラクターを経て、東北六県で企業、役所、自衛隊、専門学校、短大、職業訓練等でパソコンの研修を担当						
学習内容	社会人として、また、企業において必要とされる人材となる為にはコンピュータの基本操作や実践に役立つ書類作成能力・データ処理能力・プレゼンテーション能力が求められます。この授業ではコンピュータの基本的な操作やWord・PowerPoint・Excelの基本的な文書作成及び編集・データ処理ができるスキルを習得していきます。						
到達目標	目標①コンピュータの基本操作ができる。 目標②Wordで基本文書作成ができる。 目標③PowerPointでスライド作成や基本的なプレゼンテーション資料の作成ができる。 目標④Excelの基本的なデータ処理ができる。						
評価方法 (基準)	実技試験による評価 :90% 授業内評価(理解度・授業内作成課題・理解度・授業態度等): 10% 割合で成績評価を行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/14	演習	Windowsの基本操作・日本語入力の基本操作・フォルダ作成・USBの名前変更・データのコピー・データの保存ができる。	タイピング練習問題課題①
2	4/21	演習	Wordの基本操作・文書の入力及び編集ができる。	
3	4/28	演習	定型文書の作成及び編集ができる。	Word演習問題課題①
4	5/12	演習	簡単な表作成ができる。	
5	5/19	演習	表を含む定型文書作成ができる。	
6	5/26	演習	Wordテスト	Word演習問題課題②
7	6/2	演習	PowerPointの基本操作及びスライドの作成ができる。	
8	6/23	演習	PowerPointにクリップアート・表・グラフ・図形の挿入・修正ができる。	
9	6/30	演習	テーマ・アニメーション・画面切り替え等のスキルを習得し、プレゼンテーションに向けてのスライドの修飾ができる。①	PowerPoint演習問題課題①
10	7/7	演習	Excelの基本操作ができる。	
11	7/14	演習	基本的な関数を使用した表作成ができる。①	
12	8/18	演習	基本的な関数を使用した表作成ができる。②	Excel演習問題課題①
13	8/25	演習	簡単なグラフ作成ができる。①	
14	9/1	演習	簡単なグラフ作成ができる。②	Excel演習問題課題②
15	9/8	演習	Excelテスト	
準備学習 時間外学習			授業進度は初心者でも理解できるように進めて行きますので特に準備学習は必要ありませんが、テキスト・USBメモリ等を忘れると授業進度に遅れが生じますので忘れ物が無い様にしてください。	
【使用教科書・教材・参考書】			COMPUTER BASIC Excel Office365 & 2021 COMPUTER BASIC Word Office365 & 2021 COMPUTER BASIC PowerPoint Office365 & 2021	

科目名 (英)	英会話・医学英語 ( English conversation/medical English )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	ILC
学科・コース	救急救命科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜・4限
教員の略歴	日本人に対する英会話指導経験あり						
学習内容	グローバル化している現代社会において、患者の多様化に対し、医療従事者として適切な対応を行う為、一般的な医学英語を習得する必要がある。 一般的かつ日常的医療英語習得の為、リスニングやコミュニケーション、プリント等を使用した授業により単語や文法を理解し、本授業終了時には日常的・一般的な英会話を用いてコミュニケーションや対応が出来るようになる。						
到達目標	医療従事者として必要とされる日常英会話の基礎を学び、グローバル化している現代社会において順応な対応ができる。 ＜具体的な目標＞ 目標①日常英会話の基礎を学び、一般的なコミュニケーションをとることが出来る。 目標②日常英会話の基礎を学び、医療従事者として一般的な医療英語を用いて傷病者に適切な対応が出来る。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験:100% (評価について) A:80~100点 B:70~79点 C:60~69点 D:0~59点 A~C:合格 D:不合格(再試験)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/8	演習	Orientation, & Chapter 1 受付で使用する重要単語を理解できる。	
2	4/15	演習	Chapter 1 受付で対象者と基本的な英語対応ができる。	
3	5/13	演習	Chapter 1 受付で対象者とスムーズな英語対応ができる。医療従事者の呼称を英語で表現できる。	
4	5/20	演習	Chapter 2 病院内において英語で対応できるよう整形外科や小児科、眼科などを英語で表現でき、また案内もできる。	
5	5/27	演習	Chapter 3 基本的な体の部位の名称を英語で理解し、患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。	
6	6/3	演習	Chapter 3 続き	
7	6/10	演習	Chapter 4 様々な傷病者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。	
8	6/17	演習	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する基本的な英語対応ができる。	
9	6/24	演習	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。	
10	7/1	演習	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する基本的な英語対応ができる。	
11	7/8	演習	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。	
12	7/15	演習	Chapter 7 内科1(身体測定・診察時の表現)に関する英語対応ができる。	
13	7/22	演習	Chapter 7 続き	
14	7/29	演習	復習	
15	8/5	演習	定期試験	
準備学習 時間外学習			必要に応じて、事前にテキストに目を通して単語を確認しておく、授業後に分からなかった箇所を再確認しておいて下さい。	
【使用教科書・教材・参考書】			教科書:ILC国際語学センター:医療英語コミュニケーション. 特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会	

科目名 (英)	生命・医学倫理 (Life・Medicine Theory)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋 未倫
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分	前期 金曜・1限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	救急救命士がかかわる対象は、ヒト、すなわち「人間」である。そしてすべての人間が日々営んでいる生活については、自分自身の体験や、家族や友人、あるいは学校や職場といった地域社会で出会う人々との人間関係を通じて、自ずと理解できているが、その多くの部分を、常識化した社会通念として、他者と共有しているとも考えることが必要である。 また、救急救命士の業務遂行には、救急医学を中心とした医学全般にわたる知識や、救急医療制度に関する理解、さらには、傷病者の救護や搬送に必要な種々の技術を身につけることが必要であり、これらを科学的アプローチと科学的思考とに基づいて行うことにより、救急救命士の業務の質が担保され、救急医療の進捗がもたらされる。 さらに、救急救命士に許されている医行為は、現状において限定的であり、基本的に医師の指示の下で行われるが、医療を行う医療従事者であることについては同列であるため、医学的に、かつ、倫理的に正しい医療を行う基本原則を理解する必要がある。集団ディスカッションやグループワーク等の授業により医療の基本概念を理解し、本授業終了時には救急救命士として医療従事者として適切な対応ができるようになる。						
到達目標	生命の尊さを認識し、人の誕生から死までの間に起こりうる出来事を学び、倫理的基盤を身につけ、医療人として対応することができるようになる。 <具体的な目標> 目標①生命倫理の原則について説明ができる。 目標②医の倫理の原則について説明ができる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○レポート:100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	生命倫理の4原則について説明ができる	
2	4/11	講義	ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言について説明ができる	前回の講義内容復習
3	4/18	講義	ヘルシンキ宣言、リスボン宣言について説明ができる	前回の講義内容復習
4	4/25	講義	生命倫理の2つの考え方を理解し、違いについて説明ができる	前回の講義内容復習
5	5/9	講義	インフォームドコンセントについて理解し説明ができる。	前回の講義内容復習
6	5/16	講義	QOL、ACPIについて説明ができる。	前回の講義内容復習
7	5/23	講義	脳死と臓器移植について理解し、日本国内・海外における違いについて説明ができる。	前回の講義内容復習
8	5/30	定期試験	定期試験	定期試験範囲内の復習
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習			前回の講義内容の復習を行い、定期試験までには本教科の範囲を理解し説明ができる。	
【使用教科書・教材・参考書】			・救急救命士標準テキスト 改訂第11版(へるす出版)	

科目名 (英)	臨床心理学 ( Clinical Psychology )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江崎 浩明
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1単位)	開講区分	前期 木曜・4限
教員の略歴	公認心理師、産業カウンセラー。大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約20年間相談業務に従事。						
学習内容	人間は何らかの外的な要因で身体が傷つくと同様に、精神的にも様々な傷を負う可能性がある。大災害や悲惨な災害現場、犯罪などの要因により、とくに精神的に大きなダメージを受けやすい。悲惨な災害現場では、救助・救急活動に従事する消防職員も被災者と同様な体験を受け、また職業的責任から精神的影響が大きく、ストレスを受けやすいため心理学的な基礎知識や様々なストレス反応について理解する必要がある。集団ディスカッションやグループワーク等の授業により心理学的な基礎知識と臨床の心理学を理解し、本授業終了時には救急救命士としてストレスに対するマネジメントや救急現場での適切な対応ができるようになる。						
到達目標	①救急救命士にとっての臨床心理学の必要性について説明できる。 ②ストレスの概念・ストレッサーとストレス反応について説明できる。 ③急性ストレス・慢性ストレス・PTSDが心身に与える影響について説明できる。 ④惨事ストレスの要因・種類・症状について説明できる。 ⑤PFA(Psychological First Aid)とSFA(Stress First Aid)について説明できる。 ⑥デフュージング、デブリーフィング、PTG(Post Traumatic Growth)について説明することができる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100%(選択式と記述式) A:100~80点 B:79~70点 C:69~60点 D:59~0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/8	講義	心理学と臨床心理学の概要や役割の違いについて説明できる	心理学や臨床心理学について、思い浮かぶことを書き留めておく。
2	5/15	講義	ストレスとストレッサーの違いや代表的なストレス要因について説明できる	日頃ストレスに感じていること、これまでの人生で感じた大きなストレスについて書き留めておく。
3	5/22	講義	急性・慢性ストレス・PTSDが心身に及ぼす影響について説明できる	ストレスを感じた時、体のどこにどんな変化が起きやすいか、自身の経験を思い出しておく。
4	5/29	講義・演習	惨事ストレスとそれに対する対応方法PFA・SFA、デフュージング・デブリーフィングについて説明できる	自然災害や戦争など、ニュース等で知った惨事について、大枠ではなく一人としての体験を想像してみる。
5	6/5	講義	コーピングレパートリーやレジリエンス等のストレスマネジメントについて説明できる	どんな時間の使い方をすると気持ちが落ち着いたり幸福感を感じられるか書き留めておく。
6	6/12	講義・演習	マインドフルネスを用いたストレスマネジメントについて、その実践方法を説明できる	通学中に何度か立ち止まり、五感で何を感じたか書き留めておく。
7	6/19	定期試験	定期試験	
8	6/26	講義	試験解説	
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習			講義前に事前に教材を確認して講義を受講してください。	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト 改訂第11版 (へるす出版)	

科目名 (英)	職業倫理 ( Professional ethics )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋未倫
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 ( 2単位 )	開講区分	通年 金曜・1限
教員の略歴	理学療法士、修士(理学)、Golf physio trainer。急性期から生活期の臨床現場を経験し、教員の経験を持つ。						
学習内容	社会人、公務員、医療従事者としての職業倫理を学び、救急救命士として必要な基本的倫理観と患者への対応を学ぶ。 救急救命士の活動の基本であり、全科目、全ての活動に共通する。 自分の行うこと全てが傷病者のためであることを常に心がけ、「命をつなぐプロフェッショナル」として努力を継続できる救急救命士になる。						
到達目標	救急救命士としての職業倫理を理解し、実施・説明できる。 特にインフォームドコンセントは必ず行う行為なので、行動で確実にできるよう理解する。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○レポート:100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/6	講義	救急救命士国家試験模試用いて、その都度繰り替えにの学習を行う。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
2	6/13	講義	従来の倫理観から現代的倫理観への経緯について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
3	6/20	講義	従来の倫理観から現代的倫理観への経緯について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
4	6/27	講義	インフォームド・コンセントについて理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
5	7/4	講義	インフォームド・コンセントについて理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
6	7/11	講義	守秘義務について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
7	7/18	講義	個人情報保護について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
8	7/25	講義	SNS等での業務に関する情報について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
9	8/1	講義	傷病者・関係者への対応(救急現場での対応)について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
10	10/3	講義	傷病者・関係者への対応(医療事故)について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
11	10/10	講義	傷病者・関係者への対応(暴言、暴行などを受けた場合)について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
12	10/17	講義	傷病者・関係者への対応(インフォームドコンセント)を学生同士で実施できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
13	10/31	講義	職業倫理全般について理解し説明できる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
14	10/31	講義	過去の国家試験問題から職業倫理を学び理解する。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
15	10/31	講義	試験	
準備学習 時間外学習			実習にて傷病者・関係者に対する行動を確認する。救急救命士国家試験模試用いて、その都度繰り替えにの学習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版(へるす出版)	

科目名 (英)	保健・体育 (Health・Physical education)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	藤村 真仁 渡邊 友明 坂田 健吾
学科・コース	救急救命科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 4単位	開講区分	前期 金曜・3限
教員の略歴	体育の教員資格保持者(藤村・渡邊)。ウエイトリフティング選手歴24年(指導歴18年)(坂田)。						
学習内容	健康について理解し、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに身体構造や動作を理解する。						
到達目標	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について説明できる。 自分自身の身体動作のコントロールを身に付ける事ができる。 年代ごとの身体特徴を理解し事故回避を考えられる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	4/4	講義	「健康」とは何か理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
2	4/4	講義	「健康」とは何か理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
3	4/11	講義	「健康」とは何か理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
4	4/11	講義	「健康」とは何か理解する。④	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
5	4/18	講義	「健康」増進の目的について理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
6	4/18	講義	「健康」増進の目的について理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
7	4/25	講義	「健康」増進の目的について理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
8	4/25	講義	「健康」増進の目的について理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
9	5/2	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(上肢帯)を理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
10	5/2	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(上肢帯)を理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
11	5/9	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(上肢帯)を理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
12	5/9	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(上肢関節)を理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
13	5/16	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(上肢関節)を理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
14	5/16	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(上肢関節)を理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
15	5/23	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(腰背部)を理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
準備学習 時間外学習			この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名 (英)	保健・体育 (Health・Physical education)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	藤村 真仁 渡邊 友朗 坂田 健吾
学科・コース	救急救命科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 4単位	開講区分	前期 金曜・3限
教員の略歴	体育の教員資格保持者(藤村・渡邊)。ウェイトリフティング選手歴24年(指導歴18年)(坂田)。						
学習内容	健康について理解し、体力の向上、健康の維持増進を図るとともに身体構造や動作を理解する。						
到達目標	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について説明できる。 自分自身の身体動作のコントロールを身に付ける事ができる。 年代ごとの身体特徴を理解し事故回避を考えられる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	5/23	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(腰背部)を理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
17	5/30	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(腰背部)を理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
18	5/30	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(胸腹部)を理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
19	6/6	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(胸腹部)を理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
20	6/6	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(胸腹部)を理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
21	6/13	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(下肢帯)を理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
22	6/13	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(下肢帯)を理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
23	6/20	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(下肢帯)を理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
24	6/20	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(下肢関節)を理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
25	6/27	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(下肢関節)を理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
26	6/27	講義	人間の身体機能と構造について習得するとともに、運動に必要な体の動き(下肢関節)を理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
27	7/4	講義	年代ごとの身体的特徴を理解する。①	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
28	7/4	講義	年代ごとの身体的特徴を理解する。②	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
29	7/11	講義	年代ごとの身体的特徴を理解する。③	この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。
30	7/11	講義	筆記試験	
準備学習 時間外学習			この授業に関しては特に課外時間で行う学習はありません。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication Theory)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	藤村 真仁 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 ( 2単位 )	開講区分	前期 月曜・3限
教員の略歴	①健康運動指導士②救急救命士・ともに仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
学習内容	社会人として必要なコミュニケーションスキルを、様々な状況に対応できるよう座学だけでなく、グループワークなどの演習も行い、コミュニケーションについて具体的に学ぶ。社会人、そして一人の救急救命士として大きな視野で物事をとらえ、臨機応変に状況判断ができるように実践的な講義を行いコミュニケーションについて理解を深める。						
到達目標	円滑なコミュニケーションを実施するために、状況判断を素早く行い、相手の立場を理解するとともに、自分の意見を分かりやすく伝えることができるようになる。 〈具体的な目標〉 目標① コミュニケーション・スキルアップ検定試験に合格する 目標② 社会人として基本的なマナーを身につける 目標③ 論理的に話をするに慣れ、話す内容に説得力を持たせることができる 目標④ 現場(災害・救急)で役立つ実践的なコミュニケーションスキルを身につける						
評価方法 (基準)	(1)出席状況:50% (2)提出物:40% (3)検定合否 10% (評価について) A:80~100点 B:70~79点 C:60~69点 D:0~59点 A~C:合格 D:不合格						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	4/3	演習	コミュニケーションの定義・領域・種類について理解することができる		
2	4/7	演習	基本的対話スキル「1対1の会話について」理解及び実践ができる		前回講義範囲の復習
3	4/14	演習	基本的対話スキル「グループでの会話について」理解及び実践ができる		前回講義範囲の復習
4	4/21	演習	自己表現スキルについて理解及び実施することができる①		前回講義範囲の復習
5	5/12	演習	自己表現スキルについて理解及び実施することができる②		前回講義範囲の復習
6	5/26	演習	社会的スキルについて理解及び実施することができる①		前回講義範囲の復習
7	5/30	演習	社会的スキルについて理解及び実施することができる②		前回講義範囲の復習
8	6/2	演習	サービスマインドについて理解することができる		前回講義範囲の復習
9	6/16	演習	救急現場での対人関係における対応の基本について理解できる①		前回講義範囲の復習
10	6/23	演習	救急現場での対人関係における対応の基本について実施できる②		前回講義範囲の復習
11	7/7	演習	医療現場での、対人関係における対応の基本について理解できる①		前回講義範囲の復習
12	7/14	演習	医療現場での、対人関係における対応の基本について実施できる②		前回講義範囲の復習
13	7/28	試験	コミュニケーションスキルアップ検定		コミュニケーションスキルアップ検定の事前勉強
14	8/4	演習	救急・医療現場におけるコミュニケーションについてグループワークができる①		前回講義範囲の復習
15	8/25	演習	救急・医療現場におけるコミュニケーションについてグループワークができる②		前回講義範囲の復習
準備学習 時間外学習			指定教科書の該当範囲のページを復習		
【使用教科書・教材・参考書】			コミュニケーションスキルアップ検定テキスト(滋慶教育科学研究所) Hand-book of LIFE STYLE(滋慶教育科学研究所) 救急救命士テキスト改訂第11版(へるす出版)		

科目名 (英)	解剖生理学 (Anatomy Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	木村瞳
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	開講区分	通年 火曜・1～4限
教員の略歴	歯科麻酔科医として、手術時の全身管理や救急対応に従事。						
学習内容	医療従事者として最も重要な分野である。人体の正常を理解しないとその変化である病態、外傷における対応、傷病者の観察、救急救命処置、全てにおいて必要不可欠な知識として必要です。 解剖学・生理学については構造や各臓器の働き、部位、生命維持、生体反応を説明できるようになることが重要です。						
到達目標	人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。 <具体的な目標> 目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/15	講義	人体を構成する要素について説明できる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
2	5/13	講義	人体を構成する要素について説明できる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
3	5/20	講義	体表からみる人体の構造を理解し説明できる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
4	5/20	講義	体表からみる人体の構造を理解し説明できる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
5	5/20	講義	体表からみる人体の構造を理解し説明できる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
6	6/9	講義	呼吸系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
7	6/9	講義	呼吸系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
8	6/9	講義	呼吸系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
9	6/30	講義	呼吸系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
10	6/30	講義	循環系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
11	6/30	講義	循環系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
12	7/1	講義	循環系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
13	7/15	講義	循環系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
14	7/30	講義	消化系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
15	7/30	講義	消化系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
準備学習 時間外学習			救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士 標準テキスト 改訂第11版 からだの地図帳	

科目名 (英)	解剖生理学 (Anatomy Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	木村瞳
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	開講区分	通年 火曜・1～4限
教員の略歴	歯科麻酔科医として、手術時の全身管理や救急対応に従事。						
学習内容	医療従事者として最も重要な分野である。人体の正常を理解しないとその変化である病態、外傷における対応、傷病者の観察、救急救命処置、全てにおいて必要不可欠な知識として必要です。 解剖学・生理学については構造や各臓器の働き、部位、生命維持、生体反応を説明できるようになることが重要です。						
到達目標	人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。 <具体的な目標> 目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	7/30	講義	消化系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
17	8/5	講義	消化系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
18	8/5	講義	泌尿系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
19	8/5	講義	泌尿系・生殖系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
20	8/19	講義	生殖系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
21	8/19	講義	内分泌系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
22	8/19	講義	内分泌系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
23	8/20	講義	内分泌系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
24	8/20	講義	内分泌系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
25	8/25	講義	血液・免疫系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
26	8/25	講義	血液・免疫系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
27	8/25	講義	血液・免疫系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
28	9/16	講義	血液・免疫系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
29	9/29	講義	筋・骨格系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
30	9/29	講義	皮膚系について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
準備学習 時間外学習			救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士 標準テキスト 改訂第11版 からだの地図帳	

科目名 (英)	解剖生理学 (Anatomy Physiology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	木村瞳
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	開講区分	通年 火曜・1～4限
教員の略歴	歯科麻酔科医として、手術時の全身管理や救急対応に従事。						
学習内容	医療従事者として最も重要な分野である。人体の正常を理解しないとその変化である病態、外傷における対応、傷病者の観察、救急救命処置、全てにおいて必要不可欠な知識として必要です。 解剖学・生理学については構造や各臓器の働き、部位、生命維持、生体反応を説明できるようになることが重要です。						
到達目標	人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。 <具体的な目標> 目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
31	9/29	講義	生命の維持について説明ができる。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
32	9/30	講義	神経について説明ができる(神経系の構成、神経系の役割)。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
33	10/7	講義	神経について説明ができる(大脳、間脳、小脳、脳幹、脊髄、脳室、脳脊髄液)。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
34	10/27	講義	神経について説明ができる(脳神経。自律神経)。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
35	10/27	講義	神経について説明ができる(運動の伝導路。脊髄神経)。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
36	10/27	講義	神経について説明ができる(脳循環)。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
37	11/4	講義	神経について説明ができる(意識・反射)。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
38	12/8	講義	定期試験	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
39	12/8	講義	定期試験	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
40	12/8	講義	定期試験	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
41	12/8	講義	定期試験	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
42	12/15	講義	試験振り返り。自分の苦手分野を理解する。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
43	12/15	講義	試験振り返り。自分の苦手分野を理解する。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
44	12/15	講義	試験振り返り。自分の苦手分野を理解する。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
45	12/15	講義	試験振り返り。自分の苦手分野を理解する。	準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
準備学習 時間外学習			救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士 標準テキスト 改訂第11版 からだの地図帳	

科目名 (英)	病理学 (Pathology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	後期 金曜・4限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。						
学習内容	病理学では、疾患についての基礎的な知識から疾患や病態における所見、医療で用いる用語、細胞レベルでの変化や損傷の種類、また死についてまで幅の広い内容を学びます。資料やスライドを用いて各分野の理解度を高めていき、病理学を修了するときには各分野の内容を説明できるようになる。						
到達目標	疾病の病因病理学や微生物と感染・免疫との相互関係について基礎的内容を学びます。医療現場で症状や病態に合わせた処置を選択できるように、各メカニズムや症状について理解を深めていきます。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/10	講義	疾患の原因、発症と経過について理解ができる	事前に教科書の次回授業範囲を予習
2	10/17	講義	疾患から回復するメカニズム、疾患の予防について理解ができる。	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
3	11/7	講義	細胞障害について理解ができる(要因、変化過程)	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
4	11/14	講義	炎症の定義、原因、経過、身体への影響について理解ができる	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
5	11/21	講義	感染と感染症について学び、感染の成り立ちや微生物による感染後の各症状について理解ができる	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
6	11/28	講義	循環障害について、各障害の病態や疾患について理解ができる①(虚血・うっ血)	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
7	12/5	講義	循環障害について、各障害の病態や疾患について理解ができる②(出血・血栓・塞栓・血液凝固)	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
8	12/12	講義	循環障害について、各障害の病態や疾患について理解ができる③(梗塞・浮腫)	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
9	12/19	講義	退行性病変、進行性病変の違いや種類について理解ができる	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
10	1/9	講義	腫瘍の定義、種類、各症状、治療法について理解ができる	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
11	1/16	講義	損傷の定義、原因、治癒の過程について理解ができる	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
12	1/23	講義	死の概念、死体現象(救急隊が確認できる早期死体現象)について理解ができる	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
13	1/30	講義	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて	事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習
14	2/6	定期試験	定期試験	
15	2/13	講義	定期試験振り返り	
準備学習 時間外学習			事前に教科書の次回授業範囲を予習・前回の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト 改訂第11版 (へるす出版)	

科目名 (英)	薬理学 (Pharmacology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	江戸 清人
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	後期 月曜・3限
教員の略歴	薬学博士(S49取得) 帝京大学薬学部教授(H18-28)						
学習内容	平成26年1月「救急救命処置」の内容改訂に伴い処置範囲が拡大されました。救急救命士による「救急救命処置」の中でも特定行為である「薬剤投与」に関しては安全性と有効性の確認が必要である。それは処置拡大に伴い救命率の向上やショック状態の傷病者に処置を行う事で重篤化を防ぐ事が出来るが反面かえって慎重な適応の判断能力が求められるからである。また傷病者の高齢化や治療の高度化に伴い傷病者の使用薬剤も多く適切な観察・重症度緊急度の判断をするために傷病者の有用な情報源として判断出来ることは必要なスキルである。検査については医療機関での初期診療・緊急検査を加える事で確定診断に至る。救急救命士として判断した内容が妥当であったのかを知るためにも理解する必要がある。これらの内容に関して「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業修了時には各々の説明ができるようになる。						
到達目標	各種薬剤の薬理作用や適応、生体に及ぼす影響について学び、救急現場において、傷病者の有用な情報源として判断し、適切な現場活動ができるようになる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100~80点。 B:79~70点。 C:69~60点。 D:59~0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/6	講義	薬物の概念、薬物の分類、医薬品の種類、薬物の代謝について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
2	10/20	講義	薬物の代謝(投与経路)薬物の有害作用、薬物アレルギーについて理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
3	10/27	講義	救急救命士が用いる薬剤(アドレナリン・乳酸リンゲル液・ブドウ糖)について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
4	11/10	講義	救急救命士が用いる薬剤(アドレナリン・乳酸リンゲル液・ブドウ糖)について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
5	11/17	講義	使用頻度の高い薬剤(経口糖尿病薬・インスリン・亜硝酸薬)について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
6	12/1	講義	使用頻度の高い薬剤(降圧剤・気管支拡張薬・利尿薬)について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
7	12/8	講義	使用頻度の高い薬剤(向精神薬・ワルファリン・アスピリン・シルデナフィル)について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
8	12/15	講義	輸液、輸血製剤の保存方法、管理について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
9	12/22	講義	薬理学まとめ・試験対策	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
10	1/5	講義	検査について、基準値、カットオフ値、パニック値を理解することができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
11	1/19	講義	緊急検査、生化学検査、基準値(血液検査、動脈血液検査、尿検査、心電図検査)を理解できる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
12	1/19	講義	緊急検査、生化学検査、基準値(単純X検査、CT検査、超音波検査、MRI検査)を理解できる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
13	1/26	講義	緊急検査、生化学検査、基準値(血管造影検査、内視鏡検査)各検査画像検証を理解できる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
14	1/26	定期試験	定期試験	
15	2/3	講義	定期試験振り返り	
準備学習 時間外学習			次回の教科書範囲の予習・講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト 改訂第11版 (へるす出版)	

科目名 (英)	公衆衛生学 (Public Health)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋 英子
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分	後期 火曜・1限
教員の略歴	医学博士。薬学博士。複数の学科にて授業を行っている。						
学習内容	救急救命士。医療従事者として、国民の健康、公衆衛生に関わる内容を学び、医療従事者の役割を理解する。						
到達目標	健康、公衆衛生、わが国の人口動態、感染対策、医療提供体制、医療圏、5疾病6事業、在宅医療、医療機関、医療従事者、食品衛生、環境衛生、学校保健と母子保健、精神保健について、それぞれ説明できる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/28	講義	公衆衛生の仕組みについて理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
2	11/4	講義	医療を取り巻く環境について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
3	11/11	講義	医療供給体制、環境保健について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
4	11/18	講義	公衆衛生を支える仕組みについて理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
5	11/25	講義	学校・母子保健・地域保健について理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
6	12/2	講義	高齢者を支える仕組みについて理解ができる	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
7	12/9	定期試験	定期試験	全講義内の復習
8	12/23	講義	定期試験振り返り	
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習			次回の教科書範囲の予習・講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト 改訂第11版 (へるす出版)	

科目名 (英)	社会保障・社会福祉 (Social Security Social Welfare)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高梨 友也 千脇 隆志
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分	後期 土曜・1～3限
教員の略歴	社会福祉士、修士。障害者・高齢者福祉施設における生活相談員、管理者、施設長を経験。						
学習内容	「社会保障」とは年をとり、失業するなど、個人の努力だけでは対応に限界があり、国民同士の助け合い、国や地方公共団体による施策により生存権を保障する仕組みである。また「疾病、負傷、分娩、廃疾、死亡、老齢、失業、多子、その他困窮の原因に対し、保険的な方法または直接公の責任において経済保障の途を講じ、生活困窮に陥った者に対しては国家扶助によって最低限度の生活を保障するとともに、公衆衛生および社会福祉の向上を図り、もってすべての国民が文化的社会的の成員たるに値する生活を営むことができるようにすることである」と定義している。救急救命士は保険医療従事者としてこのような傷病者に関わる機会是非常に多くいため、これらの内容に関して「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業終了時には各々の説明ができるようになる。						
到達目標	社会保障と社会福祉の理念や医療・介護・年金保険制度、生活保護等について学び、現在の社会保障と社会福祉を支える仕組みについて説明できる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	10/18	講義	社会保障について理解し、国内外の違い、今後の動きを予測し説明ができる。		
2	10/18	講義	社会保険について理解し、国内の医療保険制度について設教ができる。	前回講義の内容について復習	
3	11/22	講義	介護保険・年金保険制度について、保険への理解、問題、今後について説明することができる。	前回講義の内容について復習	
4	11/22	講義	社会福祉・公的扶助の種類について理解し説明ができる。	前回講義の内容について復習	
5	11/22	講義	児童・障害者・高齢者福祉について理解し説明ができる。	前回講義の内容について復習	
6	11/29	講義	公的・国家扶助について理解し、救急活動での対処方も含め説明ができる。	前回講義の内容について復習	
7	11/29	定期試験	定期試験	本科目内の講義内容全てを復習	
8	11/29	講義	定期試験解説		
9	/				
10	/				
11	/				
12	/				
13	/				
14	/				
15	/				
準備学習 時間外学習			前回の講義内容についてテキストを使用し復習を行い次回の講義へ臨む。		
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版 (へるす出版)		

科目名 (英)	病院前医療概論 I ( Introduction to Prehospital Care I )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	坂田 健吾
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	前期 金曜・2限
教員の略歴	救急救命士歴20年。教員歴11年。救急救命学修士。						
学習内容	病院前医療概論 I では、救急救命士の必須スキルとして、救急医療体制・災害医療体制・病院前医療体制(プレホスピタル)・消防機関における救急活動について学びます。この講義では、現在の救急医療体制、救急救命士の役割について理解を深めていきます。						
到達目標	救急・災害・病院前医療体制について理解を深め、消防機関における救急活動を熟知し傷病者を安全に救急搬送できるための知識を身に付ける。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4	講義	救急医療体制について説明できる。①	
2	4/11	講義	救急医療体制について説明できる。②	前回範囲の復習を実施
3	4/18	講義	災害医療体制について説明できる。①	前回範囲の復習を実施
4	4/25	講義	災害医療体制について説明できる。②	前回範囲の復習を実施
5	5/9	講義	災害医療体制について説明できる。③	前回範囲の復習を実施
6	5/16	講義	災害医療体制について説明できる。④	前回範囲の復習を実施
7	5/20	講義	病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。①	前回範囲の復習を実施
8	5/26	講義	病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。②	前回範囲の復習を実施
9	6/6	講義	病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。③	前回範囲の復習を実施
10	6/13	講義	病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。④	前回範囲の復習を実施
11	6/20	講義	消防機関における救急活動について説明できる。①	前回範囲の復習を実施
12	6/27	講義	消防機関における救急活動について説明できる。②	前回範囲の復習を実施
13	7/4	講義	消防機関における救急活動について説明できる。③	前回範囲の復習を実施
14	7/11	講義	定期試験	全講義内容の復習
15	7/18	講義	定期試験振り返り	
準備学習 時間外学習			前回範囲の復習を実施	
【使用教科書・教材・参考書】			教科書:改訂第11版救急救命士テキスト へるす出版	

科目名 (英)	病院前医療概論Ⅱ (Introduction to Prehospital Care Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	前期 月曜・4限
教員の略歴	救急救命士歴6年。消防機関で救急救命士として救急・災害での現場活動を行う。						
学習内容	病院前医療において、救急救命士は命の最前線で活動します。そのため迅速な対応が求められ、緊急を要する傷病者から情報を得ることや、チームとして最良の活動をするためには、接遇やコミュニケーションについて理解を深めることが重要です。また、現場では傷病者だけでなく、チームや自身にも様々な危険が潜んでいます。上記の事象に対応するため、この講義では、接遇やコミュニケーションについて、自身や周りを守るための安全防止について理解を深め、また、実践できるようにします。						
到達目標	①病院前救護活動における救急救命士の役割と責任について学び、救急救命士として対人関係におけるコミュニケーション、接遇について理解及び実践ができる。 ②法令及び安全管理を遵守した現場活動を行い、傷病者の安全だけでなく、チーム、個人の安全についても理解及び実践ができる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験:100% (評価について) A:80~100点 B:70~79点 C:60~69点 D:0~59点 A~C:合格 D:不合格(再試験)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	救急医療における救急救命士の役割(医療機関など他機関との連携)について理解し説明ができる	
2	/	講義	救急活動時における、接遇、状況にあったコミュニケーションについて理解し説明ができる①(総論)	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
3	/	講義	救急活動時における、接遇、状況にあったコミュニケーションについて理解ができる②(相手の年齢・状況に合わせたコミュニケーション)	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
4	/	講義	ICについて理解し、人生の最終段階における者への対応及び現在の問題点について理解し説明ができる(心肺停止・DNAR等)	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
5	/	講義	法令:救急救命士法について理解し説明ができる①(目的・資格・業務・救急救命処置の定義・特定行為について)	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
6	/	講義	法令:救急救命士法について説明ができる②(義務と罰則・守秘義務)医師法・保健師助産師看護師法・消防法(法令による救急業務について)・医療法・その他の法令について説明ができる	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
7	/	講義	救急救命士の養成(生涯教育)について理解し説明ができる	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
8	/	講義	救急救命士の生涯教育・自己研鑽について理解し説明ができる	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
9	/	講義	救急現場・医療機関における安全管理について理解し説明ができる。	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
10	/	講義	救急現場・医療機関における事故について理解し対応について説明ができる(KJ法:グループワーク実施)	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
11	/	講義	感染予防策と感染防御・救急活動での感染防御について理解し、各感染症に関係する対応方法の説明ができる	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
12	/	講義	救急活動でのストレスについて学び、対応方法を理解し説明、実践することができる(KJ法:グループワーク実施)	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
13	/	講義	講義復習・まとめ	次回範囲について教科書の予習・前回講義範囲の復習
14	/	定期試験	定期試験	本講義範囲の確認、これまでの講義内容の復習
15	/	講義	定期試験振り返り	
準備学習 時間外学習			前回講義範囲の復習を実施する。	
【使用教科書・教材・参考書】			・救急救命士標準テキスト改訂第11版(へるす出版) ・救急救命士ステップアップ10 上巻下巻(へるす出版)	

科目名 (英)	救急救命処置概論 I (Introduction to Emergency Care I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	佐藤 武論毅
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分	後期 曜日・時限 火曜・1～3限
教員の略歴	救急救命士として民間救急搬送会社を経営。教育機関及び医療機関で勤務を行っている。						
学習内容	救急救命士は、傷病者に対して症状の増悪を防止し、生命の危険を回避するために必要な「救急救命処置」を行います。救急救命処置概論 I では、各疾病や外傷における症状及び必要な観察・処置について学び、傷病者の全身状態を素早く観察し、緊急度・重症度を判断する重要性について理解を深めます。						
到達目標	病態・疾病によって全身や局所に認める特徴的な症状について学び、救急現場において傷病者に迅速・適切な観察を行い、緊急度・重症度判別ができるようになる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点 B:79～70点 C:69～60点 D:59～0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/7	講義	観察の目的、意義、方法(問診、視診、聴診、触診)について説明ができる。	事前に次回範囲分を教科書で予習
2	10/7	講義	全身観察について説明ができる①(体位、顔貌、顔色、表情、嘔吐、喀血・吐血、四肢、外出血)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
3	10/7	講義	全身観察について説明ができる②(皮膚、失禁、痙攣、栄養、会話・態度、歩行、行動)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
4	10/21	講義	全身観察について説明ができる③(気道、呼吸、循環)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
5	10/21	講義	全身観察について説明ができる④(意識状態)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
6	10/21	講義	局所の観察について説明ができる①(皮膚症状)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
7	11/4	講義	局所の観察について説明ができる②(頭部、顔面、頸部)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
8	11/4	講義	局所の観察について説明ができる③(胸部、背部)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
9	11/4	講義	局所の観察について説明ができる④(腹部、鼠径部、会陰部、骨盤)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
10	11/18	講義	局所の観察について説明ができる⑤(四肢、手指、足趾、爪)	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
11	11/18	講義	神経所見について理解し、神経学的異常に対する観察を実施できる	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
12	11/18	講義	緊急度・重症度の概念や分類を学び、状態に合わせ判断、評価ができる	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
13	12/2	講義	まとめ:状況評価・初期評価・全身観察と重点観察・緊急度、重症度の判断ができる	事前に次回範囲分を教科書で予習・復習
14	12/2	定期試験	定期試験	全講義内容の復習
15	12/2	講義	定期試験振り返り	
準備学習 時間外学習			事前に次回範囲分を教科書で予習・復習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版 (へるす出版) 救急救命士 ステップアップ10 上下巻(へるす出版)	

科目名 (英)	救急救命処置概論Ⅱ (Introduction to Emergency Care Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	今井 浩之 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3単位)	開講区分	後期 月曜・4～5限目
教員の略歴	消防歴31年5か月(うち救急救命士歴:16年)・JPTECインストラクター&世話人・日本ACLS協会BLSリードインストラクター・日本救急医学会ICLSインストラクター・日本DMAT隊員						
学習内容	救急救命士は、傷病者に対して症状の増悪を防止し、生命の危険を回避するために必要な「救急救命処置」を行います。救急救命処置概論Ⅱでは、各資機材における観察や、症状に合わせた各種処置の目的・意義・方法を学び、救命するために必要な知識を身に付けます。						
到達目標	救急救命士として必要なスキルとして、資機材による観察、各症状に合わせた処置、搬送法について理解を深め、救急処置実習に結びつけ、適切な観察・処置が実施できるようになる。						
評価方法 (基準)	定期試験:100% (評価について) A:80~100点 B:70~79点 C:60~69点 D:0~59点 A~C:合格 D:不合格(再試験)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/6	講義	資機材による観察について理解できる①(観察の目的と意義:SPO2、ETCO2、酸素投与)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
2	10/6	講義	資機材による観察について理解できる②(観察の目的と意義:SPO2、ETCO2、酸素投与)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
3	10/20	講義	資機材による観察について理解できる③(観察の目的と意義:聴診器、血圧計、心電図モニター)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
4	10/20	講義	資機材による観察について理解できる④(観察の目的と意義:心電図モニター、体温計、血糖測定器)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
5	10/27	講義	救急救命処置について理解ができる①(処置の目的・意義、気道確保)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
6	10/27	講義	救急救命処置について理解ができる②(気道確保:用手、器具「包括的指示」)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
7	11/10	講義	救急救命処置について理解ができる③(気道確保:声門上気道デバイス)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
8	11/10	講義	救急救命処置について理解ができる④(気道確保:気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
9	11/17	講義	救急救命処置について理解ができる⑤(酸素投与、人工呼吸)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
10	11/17	講義	救急救命処置について理解ができる⑥(胸骨圧迫、「用手・自動式心マッサージ器」)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
11	12/1	講義	救急救命処置について理解ができる⑦(電気ショック、心電図モニター)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
12	12/1	講義	救急救命処置について理解ができる⑧(静脈路確保・輸液)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
13	12/8	講義	救急救命処置について理解ができる⑨(アドレナリン・ブドウ糖投与)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
14	12/8	講義	救急救命処置について理解ができる⑩(体位・体温管理)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
15	12/15	講義	救急救命処置について理解ができる⑪(止血、創傷処置、固定)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
準備学習 時間外学習			次回の教科書範囲の予習・講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版(へるす出版) 救急救命士 ステップアップ10 上巻下巻(へるす出版) 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック(へるす出版)	

科目名 (英)	救急救命処置概論Ⅱ (Introduction to Emergency Care Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	今井 浩之 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4単位)	開講区分	後期
教員の略歴	消防歴31年5か月(うち救急救命士歴:16年)・JPTECインストラクター&世話人・日本ACLS協会BLSリードインストラクター・日本救急医学会ICLSインストラクター・日本DMAT隊員						
学習内容	救急救命士は、傷病者に対して症状の増悪を防止し、生命の危険を回避するために必要な「救急救命処置」を行います。救急救命処置概論Ⅱでは、各資機材における観察や、症状に合わせた各種処置の目的・意義・方法を学び、救命するために必要な知識を身に付けます。						
到達目標	救急救命士として必要なスキルとして、資機材による観察、各症状に合わせた処置、搬送法について理解を深め、救急処置実習に結びつけ、適切な観察・処置が実施できるようになる。						
評価方法 (基準)	定期試験:100% (評価について) A:80~100点 B:70~79点 C:60~69点 D:0~59点 A~C:合格 D:不合格(再試験)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	12/15	講義	救急蘇生法について理解できる①(概要・歴史・1次救命処置)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
17	12/17	講義	救急蘇生法について理解できる②(1次救命処置、2次救命処置)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
18	12/17	講義	救急蘇生法について理解できる③(小児・乳児心肺蘇生法、医療機関での処置)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
19	12/17	講義	在宅医療について理解できる(概要、対処法)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
20	12/22	講義	搬送法について理解できる①(目的、意義、手順「徒手、ストレッチャー」)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
21	12/22	講義	搬送法について理解できる②(手順「ストレッチャー、車外救出」)	次回の教科書範囲の予習・講義の復習
22	1/7	定期試験	定期試験	全講義範囲の復習
23	1/7	講義	定期試験振り返り	
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習			次回の教科書範囲の予習・講義の復習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版 (へるす出版) 救急救命士 ステップアップ10 上巻下巻 (へるす出版) 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック (へるす出版)	

科目名 (英)	外傷総論 (General Introduction to Trauma)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	医局
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜・2～4限
教員の略歴	東北大学病院 救命救急センター医師						
学習内容	交通事故などによる外傷傷病者は、近年減少傾向にあるが、若年者における死亡原因の上位を占めている事実は変わりません。外傷診療の目標は、防ぎえた外傷死(PTD)を減らし傷病者の救命率を上げることです。そのためにも、この講義では、外傷についての疫学や受傷機転を学び、ロードアンドゴーとトラウマバイパスといった外傷システムへの理解を深め、防ぎえた外傷死を減らすために必要な知識を身に付けます。						
到達目標	外傷についての傷病者の評価や受傷機転、発生機序、ショックを学び、外傷時の現場活動において必要な救急処置や適切な対応ができるようになる。						
評価方法 (基準)	○出席率66.7%以上が評価対象。 ○定期試験100% A:100～80点。 B:79～70点。 C:69～60点。 D:59～0点不合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/2	講義	外傷傷病者の現状について理解することができる(統計、外傷死疫学、PTD)	事前に教科書該当範囲の予習
2	10/2	講義	外傷システムについて理解ができる(ロードアンドゴー、トラウマバイパス)	事前に教科書該当範囲の予習・復習
3	10/2	講義	各受傷機転とエネルギーについて理解ができる。直達損傷と介達損傷について理解ができる。	事前に教科書該当範囲の予習・復習
4	10/9	講義	外傷の分類を、成傷器・損傷部位・損傷の数を観点から理解できる。各受傷形態について理解ができる。	事前に教科書該当範囲の予習・復習
5	10/9	講義	外傷の病態生理が理解(ショック・非ショック)できる。	事前に教科書該当範囲の予習・復習
6	10/9	講義	外傷の現場活動が理解できる(状況評価から継続観察)。	事前に教科書該当範囲の予習・復習
7	10/16	講義	定期試験	事前に教科書該当範囲の予習・復習
8	10/16	講義	定期試験解説	
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習			事前に教科書該当範囲の予習・復習	
【使用教科書・教材・参考書】			教科書:改訂第10版救急救命士テキスト(へるす出版) 参考書:救急救命士標準テキスト追補板(へるす出版) わかりやすい救急救命士法(へるす出版)	

科目名 (英)	災害医療 (disaster medicine)	必修 選択	必修	年次	年1次	担当教員	太田晴美 坂田健吾
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 4単位	開講区分	通年 金曜・4限
教員の略歴	国内外の災害医療現場活動、訓練、調査、研究に携わっている教員が担当する(太田)						
学習内容	国内外で災害が多発し、その様相も多様化している。救急救命士は災害発生時には人命救助、応急処置、調整など、多岐にわたる活動が求められる。また、平常時に予防(防災)活動も重要な役目である。平常時から災害時まで、救急救命士として求められる役割を学び、防げた死・合併症を減らすことに寄与する。						
到達目標	①災害医療の基礎的知識を理解する。 ②災害時の医療活動の実際を知り、今日的課題を考察する。 ③災害が人々の生活に及ぼす影響を理解する。 ④災害時に求められる救急救命士の役割を述べることができる。						
評価方法 (基準)	<p><b>太田担当部分(50点)</b>:演習参加(チームワーク、リーダー・メンバーシップ、貢献度)20点、グループワーク成果(貢献度含む)10点、授業内で行う課題20点  * 災害に関する写真、映像等を見ることに不安がある人、被災経験がある方は担当教員に相談してください。  * 課題提出は随時説明する(指定された内容は遵守する)  * 授業内では指示された時間以外は私語、携帯電話の利用禁止。その他はガイダンスで説明する。</p> <p><b>坂田</b>:筆記試験を実施。50点満点で評価。</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/18	講義	コースガイダンス、災害とは、災害医療の目的を理解する(太田)	近年発生している災害事例について学ぶ
2	4/18	講義	過去の災害事例から学ぶ、災害医療の基礎知識(太田)	過去に発生した災害事例について学ぶ
3	4/25	講義	災害医療概念を理解する。(災害の定義)	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
4	5/9	講義	災害医療概念を理解する。(災害の分類-1)	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
5	5/9	講義	災害医療概念を理解する。(災害の分類-2)	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
6	5/16	講義	災害医療概念を理解する。(マスメディアにおける災害)	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
7	5/30	講義	CSCATTT 災害時における情報(手段と特徴、内容)を説明できる(太田)	救急救命士標準テキストにて復習を行う。
8	5/30	講義	備災活動・災害訓練の種類や特徴を理解する(太田)	災害訓練の準備、方法、内容について復習する
9	6/7	講義	災害時の医療ニーズを理解する①(太田)	災害時はどのような医療が必要になるか学ぶ
10	6/7	講義	災害時の医療ニーズを理解する②(太田)	災害時はどのような医療が必要になるか学ぶ
11	6/7	講義	災害訓練における傷病者の準備を実践できる(ムラージュ)(太田)	訓練における模擬傷病者の役割について学ぶ
12	6/7	講義	トリアージタグの取り扱い、トリアージの注意点を説明できる(START法の実施)(太田)	トリアージとは何かを説明できる
13	6/7	講義	訓練を振り返り、学びの共有ができる(太田)	チームワークを振り返る
14	6/20	講義	災害医療におけるこころの反応について理解する(太田)	被災者、救援者のこころの反応ASDとPTSDについて学ぶ
15	6/20	講義	災害時のチーム医療、多職種協働と救急救命士の役割を説明できる(太田)	前期に学修した内容を再確認する
準備学習 時間外学習			実習にて傷病者・関係者に対する行動を確認する。救急救命士国家試験模試用いて、その都度繰り返し学習を行う。救急救命士標準テキストで復習を行う。また、ニュースや新聞などで過去の災害事例と、発生している災害等、救急救命士として活動するうえで必要な情報を整理する。	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版、配布資料 【参考書】災害看護 寄り添う、つながる、備える 学研 2025	

科目名 (英)	災害医療 ( disaster medicine )	必修 選択	必修	年次	年1次	担当教員	太田晴美 坂田健吾
学科・コース	救急救命科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 4単位	開講区分	曜日・時限 通年 金曜・4限
教員の略歴	国内外の災害医療現場活動、訓練、調査、研究に携わっている教員が担当する(太田)						
学習内容	国内外で災害が多発し、その様相も多様化している。救急救命士は災害発生時には人命救助、応急処置、調整など、多岐にわたる活動が求められる。また、平常時に予防(防災)活動も重要な役目である。平常時から災害時まで、救急救命士として求められる役割を学び、防ぎえた死・合併症を減らすことに寄与する。						
到達目標	①災害医療の基礎的知識を理解する。 ②災害時の医療活動の実際を知り、今日的課題を考察する。 ③災害が人々の生活に及ぼす影響を理解する。 ④災害時に求められる救急救命士の役割を述べるができる。						
評価方法 (基準)	<b>太田担当部分(50点)</b> : 演習参加(チームワーク、リーダー・メンバーシップ、貢献度)20点、グループワーク成果(貢献度含む)10点、授業内で行う課題20点 * 災害に関する写真、映像等を見ることに不安がある人、被災経験がある方は担当教員に相談してください。 * 課題提出は随時説明する(指定された内容は遵守する) * 授業内では指示された時間以外は私語、携帯電話の利用禁止。その他はガイダンスで説明する。  <b>坂田</b> : 筆記試験を実施。50点満点で評価。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	10/3	講義	災害時の救急救命士活動について理解する(消防/病院/民間救急)	CSCATTT, DMAT, Drカーについて。
17	10/3	講義	災害時の特徴的な病態: 圧挫症候群、深部静脈血栓症、環境障害(暑熱・寒冷環境)等について理解する	災害時に発症し救急救命士が対応する症例を理解する。
18	10/10	講義	多数傷病者対応を理解する。-1	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
19	10/17	講義	多数傷病者対応を理解する。-2	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
20	10/24	講義	DMATのロジスティックについて理解する。	ロジスティックの活動について。
21	10/24	講義	大規模な催し物のような場所で発生する災害を理解する。	マスギャザの対応。災害想定の前訓練。
22	10/31	講義	トリアージを理解してできるようになる。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
23	11/7	講義	大規模災害を理解する。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
24	11/14	講義	特殊災害を理解する。	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
25	11/21	講義	災害時の活動。START法からセカンドトリアージまでの流れをできる。-1	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
26	11/28	講義	災害時の活動。START法からセカンドトリアージまでの流れをできる。-2	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
27	12/5	講義	図上訓練を実施し、総手訓練ができるようになる。-1	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
28	12/12	講義	図上訓練を実施し、総手訓練ができるようになる。-2	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
29	12/19	講義	期末試験	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
30	1/9	講義	試験の振り返り	授業後、救急救命士標準テキストにて復習を行う。
準備学習 時間外学習			実習にて傷病者・関係者に対する行動を確認する。救急救命士国家試験模試用いて、その都度繰り返し学習を行う。救急救命士標準テキストで復習を行う。また、ニュースや新聞などで過去の災害事例と、発生している災害等、救急救命士として活動するうえで必要な情報を整理する。	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版、配布資料 【参考書】災害看護 寄り添う、つながる、備える 学研 2025	

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	坂田 健吾 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分	通年 水曜・1～4限
教員の略歴	①救急救命士歴20年・修士(救急救命学) ②救急救命士歴5年(消防機関で消防吏員として勤務経験)						
学習内容	救急救命士として、必要な知識や技術を、実習をとおし学んでいきます。また、様々な年齢、症状の傷病者、関係者と接することから、接遇やコミュニケーション力も身に付け、安心を与える言葉の力についても学んでいきます。基本的な、基礎・土台となる知識や技術を身に付け、今後行う、応用の救急実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳへつなげるよう訓練を行い、将来現場で即戦力として活躍できる能力を身に付けます。						
到達目標	実習室内外におけるシミュレーション実習により、必要な知識・技術を身に付け、実際の救急現場で即戦力として救急活動が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標①基本的な救急活動(安全管理も含め)の流れについて理解し実施ができる。 目標②身体所見・バイタルサインの観察、処置について理解、実施し重症度及び緊急度の判断ができる。 目標③チームで効率的かつ正確な心肺蘇生法が実施できる。 目標④各種資機材への理解、症状に合わせた器具の選定・使用ができる。						
評価方法 (基準)	・授業態度、定期的な実技・手技試験及び学年末定期試験(筆記)を総合的に評価 ○授業態度:20%+筆記試験:80%=100% ○実技・手技試験:100% ※実技・手技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 (評価) A:100～80点 B:79～70点 C:69～60点 D:59～0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	実習	救急救命士という資格を理解し、救急救命士としての使命について説明ができる。	
2	4/9	実習	救急活動の流れ、救急処置の重要性を理解し説明することができる。	
3	4/9	実習	(規律訓練)停止間における各個の動きができる。	
4	4/9	実習	(規律訓練)停止間における小隊の動きができる。	
5	4/16	実習	(被覆・止血処置・三角巾法)三角巾、ガーゼを用いた被覆・止血処置について実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
6	4/16	実習	(被覆・止血処置・三角巾法)三角巾、ガーゼを用いた被覆・止血処置について実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
7	4/16	実習	(固定法・副子)副子と三角巾で行う固定法について実施ができる。(上下肢)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
8	4/16	実習	(固定法・副子)副子と三角巾で行う固定法について実施ができる。(上下肢)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
9	4/23	実習	(止血法)出血状況に応じた、直接圧迫止血法、止血点止血法、緊迫止血法が実施できる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
10	4/23	実習	(止血法)出血状況に応じた、直接圧迫止血法、止血点止血法、緊迫止血法が実施できる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
11	4/23	実習	(想定訓練)想定に合わせた処置が実施できる。(被覆・固定・止血処置)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
12	4/23	実習	(想定訓練)想定に合わせた処置が実施できる。(被覆・固定・止血処置)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
13	5/7	実習	手技・実技試験(被覆・固定、止血処置)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
14	5/7	実習	手技・実技試験(被覆・固定、止血処置)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
15	5/7	実習	手技・実技試験(被覆・固定、止血処置)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
準備学習 時間外学習			前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版(へるす出版)	

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	坂田 健吾 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分	通年 水曜・1～4限
教員の略歴	①救急救命士歴20年・修士(救急救命学) ②救急救命士歴5年(消防機関で消防吏員として勤務経験)						
学習内容	救急救命士として、必要な知識や技術を、実習をとおし学んでいきます。また、様々な年齢、症状の傷病者、関係者と接することから、接遇やコミュニケーション力も身に付け、安心を与える言葉の力についても学んでいきます。基本的な、基礎・土台となる知識や技術を身に付け、今後行う、応用の救急実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳへつなげるよう訓練を行い、将来現場で即戦力として活躍できる能力を身に付けます。						
到達目標	実習室内外におけるシミュレーション実習により、必要な知識・技術を身に付け、実際の救急現場で即戦力として救急活動が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標①基本的な救急活動(安全管理も含め)の流れについて理解し実施ができる。 目標②身体所見・バイタルサインの観察、処置について理解、実施し重症度及び緊急度の判断ができる。 目標③チームで効率的かつ正確な心肺蘇生法が実施できる。 目標④各種資機材への理解、症状に合わせた器具の選定・使用ができる。						
評価方法 (基準)	・授業態度、定期的な実技・手技試験及び学年末定期試験(筆記)を総合的に評価 ○授業態度:20%+筆記試験:80%=100% ○実技・手技試験:100% ※実技・手技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 (評価) A:100～80点 B:79～70点 C:69～60点 D:59～0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	5/7	実習	手技・実技試験(被覆・固定、止血処置)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
17	5/14	実習	(搬送法・徒手搬送)搬送用器具を用いず、用手で行う搬送ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
18	5/14	実習	(搬送法・徒手搬送)搬送用器具を用いず、用手で行う搬送を実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
19	5/14	実習	(搬送法・器具搬送)搬送用器具を用いた搬送が実施できる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
20	5/14	実習	(搬送法・器具搬送)搬送用器具を用いた搬送が実施できる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
21	5/21	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS一人法について説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
22	5/21	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS一人法について説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
23	5/21	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS二人法について説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
24	5/21	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS二人法について説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
25	6/4	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS一人法について一般市民向けに説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
26	6/4	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS一人法について一般市民向けに説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
27	6/4	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS二人法について一般市民向けに説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
28	6/4	実習	(心肺蘇生法)異物除去を含む、BLS二人法について一般市民向けに説明・実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
29	6/11	実習	手技・実技試験(異物除去・BLS)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
30	6/11	実習	手技・実技試験(異物除去・BLS)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
準備学習 時間外学習			前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版(へるす出版)	

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	坂田 健吾 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分	通年 水曜・1~4限
教員の略歴	①救急救命士歴20年・修士(救急救命学) ②救急救命士歴5年(消防機関で消防吏員として勤務経験)						
学習内容	救急救命士として、必要な知識や技術を、実習をとおし学んでいきます。また、様々な年齢、症状の傷病者、関係者と接することから、接遇やコミュニケーション力も身に付け、安心を与える言葉の力についても学んでいきます。基本的な、基礎・土台となる知識や技術を身に付け、今後行う、応用の救急実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳへつながらよう訓練を行い、将来現場で即戦力として活躍できる能力を身に付けます。						
到達目標	実習室内外におけるシミュレーション実習により、必要な知識・技術を身に付け、実際の救急現場で即戦力として救急活動が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標①基本的な救急活動(安全管理も含め)の流れについて理解し実施ができる。 目標②身体所見・バイタルサインの観察、処置について理解、実施し重症度及び緊急度の判断ができる。 目標③チームで効率的かつ正確な心肺蘇生法が実施できる。 目標④各種資機材への理解、症状に合わせた器具の選定・使用ができる。						
評価方法 (基準)	・授業態度、定期的な実技・手技試験及び学年末定期試験(筆記)を総合的に評価 ○授業態度:20%+筆記試験:80%=100% ○実技・手技試験:100% ※実技・手技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 (評価) A:100~80点 B:79~70点 C:69~60点 D:59~0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
31	6/11	実習	実技・手技試験(異物除去・BLSの一般市民に向けた説明・実技)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
32	6/11	実習	実技・手技試験(異物除去・BLSの一般市民に向けた説明・実技)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
33	6/25	実習	状況評価・初期評価について説明し実施することができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
34	6/25	実習	初期評価において、症状に合わせた手動的気道確保を説明し実施ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
35	6/25	実習	(バイタルサイン・呼吸)有無、性状、回数、聴診について実施し評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
36	6/25	実習	(バイタルサイン・呼吸)有無、性状、回数、聴診について実施し評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
37	7/2	実習	(バイタルサイン・循環)脈拍の有無、性状、回数測定について実施し評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
38	7/2	実習	(バイタルサイン・循環)脈拍の有無、性状、回数測定について実施し評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
39	7/2	実習	(バイタルサイン・循環)器具を用いた血圧測定を実施し評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
40	7/2	実習	(バイタルサイン・循環)脈拍の有無、性状、回数測定について実施し評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
41	7/9	実習	(バイタルサイン・循環)心電図モニターを装着し、心電図の評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
42	7/9	実習	(バイタルサイン・呼吸)SpO2測定を実施し評価ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
43	9/8	実習	実技・手技試験(初期評価・状況評価)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
44	9/16	実習	実技・手技試験(バイタルサイン測定)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
45	9/30	実習	実技・手技試験(バイタルサイン測定)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
準備学習 時間外学習			前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト改訂第11版(へるす出版)	

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	坂田 健吾 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分	通年 水曜・1～4限
教員の略歴	①救急救命士歴20年・修士(救急救命学) ②救急救命士歴5年(消防機関で消防吏員として勤務経験)						
学習内容	救急救命士として、必要な知識や技術を、実習をとおし学んでいきます。また、様々な年齢、症状の傷病者、関係者と接することから、接遇やコミュニケーション力も身に付け、安心を与える言葉の力についても学んでいきます。基本的な、基礎・土台となる知識や技術を身に付け、今後行う、応用の救急実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳへつなげるよう訓練を行い、将来現場で即戦力として活躍できる能力を身に付けます。						
到達目標	実習室内外におけるシミュレーション実習により、必要な知識・技術を身に付け、実際の救急現場で即戦力として救急活動が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標①基本的な救急活動(安全管理も含め)の流れについて理解し実施ができる。 目標②身体所見・バイタルサインの観察、処置について理解、実施し重症度及び緊急度の判断ができる。 目標③チームで効率的かつ正確な心肺蘇生法が実施できる。 目標④各種資機材への理解、症状に合わせた器具の選定・使用ができる。						
評価方法 (基準)	・授業態度、定期的な実技・手技試験及び学年末定期試験(筆記)を総合的に評価 ○授業態度:20%+筆記試験:80%=100% ○実技・手技試験:100% ※実技・手技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 (評価) A:100～80点 B:79～70点 C:69～60点 D:59～0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
46	10/1	実習	(気道確保)症状に合わせた手動的気道確保について説明し実施ができる	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
47	10/1	実習	(気道確保・異物除去)吸引器を用いた吸引について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
48	10/1	実習	(気道確保・異物除去)吸引器を用いた吸引について説明し実施ができる。(ヤンカーカテテル、サクシオンチューブ)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
49	10/1	実習	(気道確保・異物除去)喉頭鏡、マギール鉗子を用いた異物除去について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
50	10/8	実習	(気道確保・補助呼吸)BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた換気及び聴診器で確認が実施できる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
51	10/8	実習	(気道確保・補助呼吸)BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた換気及び聴診器で確認が実施できる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
52	10/8	実習	(器具を用いた気道確保)経口エアウェイについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
53	10/8	実習	(器具を用いた気道確保)経口エアウェイについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
54	10/15	実習	(器具を用いた気道確保)経鼻エアウェイについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
55	10/15	実習	(器具を用いた気道確保)経鼻エアウェイについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
56	10/15	実習	実技・手技試験(想定に合わせた、気道確保、異物除去・補助呼吸)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
57	10/15	実習	実技・手技試験(想定に合わせた、気道確保、異物除去・補助呼吸)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
58	10/22	実習	実技・手技試験(経口エアウェイ・経鼻エアウェイ)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
59	10/22	実習	実技・手技試験(経口エアウェイ・経鼻エアウェイ)	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
60	10/22	実習	(胸骨圧迫)強く・早く・絶え間ない胸骨圧迫について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
準備学習 時間外学習			前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト 11版(へるす出版)	

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	坂田 健吾 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分	通年 水曜・1~4限
教員の略歴	①救急救命士歴20年・修士(救急救命学) ②救急救命士歴5年(消防機関で消防吏員として勤務経験)						
学習内容	救急救命士として、必要な知識や技術を、実習をとおし学んでいきます。また、様々な年齢、症状の傷病者、関係者と接することから、接遇やコミュニケーション力も身に付け、安心を与える言葉の力についても学んでいきます。基本的な、基礎・土台となる知識や技術を身に付け、今後行う、応用の救急実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳへつながらよう訓練を行い、将来現場で即戦力として活躍できる能力を身に付けます。						
到達目標	実習室内外におけるシミュレーション実習により、必要な知識・技術を身に付け、実際の救急現場で即戦力として救急活動が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標①基本的な救急活動(安全管理も含め)の流れについて理解し実施ができる。 目標②身体所見・バイタルサインの観察、処置について理解、実施し重症度及び緊急度の判断ができる。 目標③チームで効率的かつ正確な心肺蘇生法が実施できる。 目標④各種資機材への理解、症状に合わせた器具の選定・使用ができる。						
評価方法 (基準)	・授業態度、定期的な実技・手技試験及び学年末定期試験(筆記)を総合的に評価 ○授業態度:20%+筆記試験:80%=100% ○実技・手技試験:100% ※実技・手技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 (評価) A:100~80点 B:79~70点 C:69~60点 D:59~0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
46	10/22	実習	(胸骨圧迫)強く・早く・絶え間ない胸骨圧迫について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
47	10/29	実習	(胸骨圧迫)強く・早く・絶え間ない胸骨圧迫について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
48	10/29	実習	(心肺蘇生法)胸骨圧迫30回/BVMを使用した人工呼吸2回の5サイクルを正確に実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
49	10/29	実習	(心肺蘇生法)胸骨圧迫30回/BVMを使用した人工呼吸2回の6サイクルを正確に実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
50	10/29	実習	(心肺蘇生法)3人で正確な心肺蘇生法が実施できる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
51	11/5	実習	実技・手技試験(3人での心肺蘇生法) ※胸骨圧迫の質、正確な人工呼吸、スムーズな連携	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
52	11/5	実習	実技・手技試験(4人での心肺蘇生法) ※胸骨圧迫の質、正確な人工呼吸、スムーズな連携	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
53	11/5	実習	(心肺蘇生法)確実なCPR、ICについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
54	11/5	実習	(心肺蘇生法)確実なCPR、ICについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
55	11/12	実習	(AED)AEDの操作・インフォームドコンセントについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
56	11/12	実習	(AED)AEDの操作・インフォームドコンセントについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
57	11/12	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
58	11/12	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
59	11/19	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
60	11/19	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置について説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
準備学習 時間外学習			前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト 11版(へるす出版)	

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	坂田 健吾 岸根 隼太
学科・コース	救急救命科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分	通年 水曜・1～4限
教員の略歴	①救急救命士歴20年・修士(救急救命学) ②救急救命士歴5年(消防機関で消防吏員として勤務経験)						
学習内容	救急救命士として、必要な知識や技術を、実習をとおし学んでいきます。また、様々な年齢、症状の傷病者、関係者と接することから、接遇やコミュニケーション力も身に付け、安心を与える言葉の力についても学んでいきます。基本的な、基礎・土台となる知識や技術を身に付け、今後行う、応用の救急実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳへつながらよう訓練を行い、将来現場で即戦力として活躍できる能力を身に付けます。						
到達目標	実習室内外におけるシミュレーション実習により、必要な知識・技術を身に付け、実際の救急現場で即戦力として救急活動が出来るようになる。 ＜具体的な目標＞ 目標①基本的な救急活動(安全管理も含め)の流れについて理解し実施ができる。 目標②身体所見・バイタルサインの観察、処置について理解、実施し重症度及び緊急度の判断ができる。 目標③チームで効率的かつ正確な心肺蘇生法が実施できる。 目標④各種資機材への理解、症状に合わせた器具の選定・使用ができる。						
評価方法 (基準)	・授業態度、定期的な実技・手技試験及び学年末定期試験(筆記)を総合的に評価 ○授業態度:20%+筆記試験:80%=100% ○実技・手技試験:100% ※実技・手技試験にて不合格の場合、筆記試験の得点によらず当科目は不合格とする。 (評価) A:100～80点 B:79～70点 C:69～60点 D:59～0点不合格						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
46	11/19	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
47	11/19	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
48	11/26	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
49	11/26	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AEDによる処置、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
50	11/26	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AED、器具を用いた気道確保を行い、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
51	11/26	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AED、器具を用いた気道確保を行い、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
52	12/3	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AED、器具を用いた気道確保を行い、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
53	12/3	実習	(心肺蘇生法)現場到着から、CPR、IC、AED、器具を用いた気道確保を行い、救急車内搬送までについて説明し実施ができる。	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
54	12/3	実習	実技・手技試験(心肺蘇生法) 出動～処置～搬送開始	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
55	12/3	実習	実技・手技試験(心肺蘇生法) 出動～処置～搬送開始	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
56	12/10	実習	実技・手技試験(心肺蘇生法) 出動～処置～搬送開始	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
57	12/10	実習	実技・手技試験(心肺蘇生法) 出動～処置～搬送開始	前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習
58	12/10	定期試験	定期試験事前対策	これまでの範囲の座学的復習
59	12/10	定期試験	定期試験(筆記)	これまでの範囲の座学的復習
60	12/10	定期試験	定期試験振り返り	
準備学習 時間外学習			前回範囲の座学的復習・訓練の反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】			救急救命士標準テキスト 11版(へるす出版)	

科目名 (英)	トレーニング演習 I ( Training Exercises I )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	藤村真仁 坂田坂田
学科・コース	救急救命科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 2単位	開講区分	通年 木曜・2限
教員の略歴	体育の教員免許保持者(藤村)。ウェイトリフティング選手歴24年(指導歴18年)(坂田)。						
学習内容	災害現場での活動を見据えるとともに、公安職採用試験を考慮し、体力及び運動能力の維持向上を目的とする。						
到達目標	公安職の採用試験でも実施されることが多い、運動能力テストの満点を目指す。						
評価方法 (基準)	運動能力テストの内容を用いて評価。主にシャトルラン、反復横跳び、体前屈、上体お越し、握力、懸垂、腕立て伏せ、立ち幅跳びを用いる。 4月からの運動能力テストの結果と比較し、8種目の内4種目で体力向上すれば合格。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/10	演習	体力測定① 体力測定を実施し現状を把握する。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
2	4/24	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
3	5/8	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
4	5/15	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
5	5/22	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
6	5/29	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
7	6/5	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
8	6/12	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
9	6/19	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
10	6/26	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
11	7/3	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
12	7/10	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
13	7/17	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
14	7/24	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
15	7/31	演習	体力測定② 体力測定を実施し成果と今後の課題を検討する。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名 (英)	トレーニング演習Ⅱ ( Training Exercises II )	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	藤村 真 仁 坂田 健
学科・コース	救急救命科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 2単位	開講区分	通年 木曜 2限
教員の略歴	体育の教員免許保持者(藤村)。ウェイトリフティング選手歴24年(指導歴18年)(坂田)。						
学習内容	災害現場での活動を見据えるとともに、公安職採用試験を考慮し、体力及び運動能力の維持向上を目的とする。						
到達目標	公安職の採用試験でも実施されることが多い、運動能力テストの満点を目指す。						
評価方法 (基準)	運動能力テストの内容を用いて評価。主にシャトルラン、反復横跳び、体前屈、上体お越し、握力、懸垂、腕立て伏せ、立ち幅跳びを用いる。 10月からの運動能力テストの結果と比較し、8種目の内3種目で体力向上すれば入れば合格。□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/3	演習	体力測定① 体力測定を実施し現状を把握する。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
2	10/10	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
3	10/17	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
4	10/24	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
5	11/7	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
6	11/14	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
7	11/21	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
8	11/28	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
9	12/5	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
10	12/12	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
11	12/19	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
12	1/9	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
13	1/16	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
14	1/23	演習	各種トレーニングを行い、体力向上を目指す。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
15	1/30	演習	体力測定② 体力測定を実施し成果と今後の課題を検討する。	公務員採用試験まで、継続し自己研鑽をする。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				